

～「ここすき」学びの記録～

「わかる」の始まりは「わかる」・「あつめる」

* 緑色のコップを手に持ち、真剣なまなざしで何かを見つめているTさん。
何か**おもしろいことに気づいたようで目が輝いています**。いったい何を発見したのでしょうか？

- 1) 緑のコップを手に持ち、真剣なまなざし。 2) 手を伸ばして赤いコップを取りました。 3) 次に、黄色のコップも集めると・・・



- 5) 4色全部のコップを集めて、お母さんのところへ持って行きました。



- 4) 最後に、青いコップをつかみ・・・



Tさんは、テーブルの上に並べられた4色の食器の中から「コップ」だけを分けて集めて、「**コップの集合**」という**新しい秩序・パターン**を発見・創造していたんです！

そして、新しい「秩序・パターン」を自分で発見・創造して満足するだけでなく、それを**大好きなお母さんとも分け合い、共に喜び合おう**としているのです。

世界の中から、**新しい「秩序・パターン」を発見・創造し**、
その「秩序・パターン」を**他者と分かち合い、人々を喜ばせよう**とすること。
それはまさに、**科学者やアーティストがやっている「科学」や「芸術」と同じ行為**ですね。

1～2歳児は、誰から言われたわけでもないのに、
そうした「科学」や「芸術」に、**真剣な表情で、自分から取り組み**、
さまざまな「秩序・パターン」を遊びを通して、**深く学んでいるのです！**

この遊びの中に見られる「わかる」「あつめる」などは、
1～2歳の子どもの遊びの中によく見られます。それこそまさに、「わかる」ことのはじまりであり、
科学者のような知性や、芸術家のような創造力が子どもの中に育っている証拠なのです。